

市は「住むひとが誇りと愛着を感じ、訪ねるひとの心に残る松江の景観づくり」を推進しています。

シリーズ景観 86

～『みんなで残したい松江の景観400選集』から景観審議会が特にお薦めする景観～

## — No183 石橋町界限 —

せんじゅいん

しょうゆ

「千手院下のこの辺りは、醤油醸造や造り酒屋の店や蔵などが立ち並び、昔の松江らしい町並みが残されていて、これからもできるだけ残しておきたい町並みです」と推薦いただきました。

石橋町は、松江城の北東に位置する町で江戸期の城下絵図にも見受けられ、城下町の一角の町人町を形成してきました。北堀町との境を流れる奥谷川には、かつては荷を載せた川舟が行き交ったそうで、川に大きな石橋が架かっていたことが町名の由来とされています。

和瓦屋根と格子窓が軒を連ね、いくつか見られる小道が町の奥行きを深さを感じさせます。飲料水に乏しかった松江ですが、当地は井戸水が豊富で現在も古井戸が点在しています。

千手院下の大井戸は文久3（1863）年に掘られたもので水質が良く、飲料や消火用に利用されました。石橋町界限は歴史的な面影を今も色濃く残しています。

「みんなで残したい松江の景観400選集」は、市ホームページでご覧いただけます。

【問い合わせ】まちづくり文化財課 景観政策係 TEL 55-5387

推薦写真



松江の景観400選

検索

